

研究種目：若手研究（A）

研究期間：2007 ～ 2010

課題番号：19683002

研究課題名（和文）近現代フランス共和主義における非宗教性とポスト植民地主義的社会構造

研究課題名（英文）Republican Secularism and Postcolonial Social Structure in Modern France

研究代表者

大中 一彌（ONAKA KAZUYA）

法政大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：60434180

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：トランスナショナル、政治学、植民地主義、政教分離、フランス

1. 研究計画の概要

本課題におけるおもな研究対象は、大都市郊外の暴動というかたちで噴出したフランス社会のポスト植民地主義的(コロニアル)な構造と、その共和主義に特有の政教分離の形態である非宗教性のあいだの相関関係の分析である。

2. 研究の進捗状況

言語環境による移民問題の認識のギャップを比較するという目的で、当初計画のとおり、フランス、アメリカへの出張を実施、資料収集に努めてきた。

また、フランス（西川長夫）、イギリス（小笠原博毅）、日本（丹野清人）ら、各国における当該問題の専門家を招き、講演会を開催し、専門的な知見の交換および研究で得られた知見の社会への還元を努めている。

さらに、イスラム教徒女生徒のいわゆるスカーフ（ヒジャブ）問題に関する研究成果を、複数言語で発信するという当初計画で掲げた目標については、日本語以外、すなわち英語とフランス語についてはすでに達成している【後述の5. ①および⑤】。残る日本語については、ジェンダー研究関連の叢書から、平成 22 年度中に成果の一端が活字となる予定である。これらの論文では、カトリシズムと反教権主義の対立図式における非宗教性の歴史的成立過程を分析するとともに、この共和派的な非宗教性概念にとって、20 世紀後半以降に登場したイスラムが独特の問題性をはらんでいることを指摘している。

なお、言語的アイデンティティ、宗教的アイデンティティに加え、本研究では法的アイデンティティともいうべき国籍／市民権（シ

ティズンシップ citizenship/citoyenneté）とポスト植民地主義との関連も吟味の俎上に載せている。この分野での本研究課題の成果は、平成 21 年度までに 3 点が公刊され【後述 5. ②、③、④】、平成 22 年度中には少なくともさらに 1 点上梓の予定である。また、法政大学出版社からフランス移民史の分野における代表的な著作を翻訳出版する作業を平成 21 年度から進めている。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

イギリスや日本をフィールドとする研究者との交流は、フランスを専門とする研究代表者にとって多くの気づきをもたらした。4 年計画の 3 年目までの達成水準としては、満足すべき水準にあると考えられる。4 年目となる平成 22 年度には、研究成果のまとめを行う。

4. 今後の研究の推進方策

難民・国境管理政策、および移民政策における国民国家と EU との関係に着目する必要がある。当科研費では支弁しきれなかったため、所属機関の図書館の費用で、この政策分野の英文資料シリーズを購入している。こうした資料を分析することが今後の研究の推進に必要と考えるためである。また、欧州域内における移民・難民の実際の処遇を見る目的で、サンガットなど英仏海峡沿いで活動する NGO などに接触、文献では得られない現場の知見を求めることを構想している。わが国においても政策ニーズの高まっている分野であり、ヨーロッパ側でも状況の変化に応じて次々と新たな立法措置が講じられて

いる。本研究課題において得られた知見を古びさせず、さらに深化させるためにも、文献に基づく研究と、現場サイドからの知見の吸収とを車の両輪としつつ、今後とも研究を進めていきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 5 件)

- ① Kazuya ONAKA, “The Muslim Schoolgirl's Headscarf in the Public Space of Modern France : A Consideration of Secularism, Gender and Post-Colonial Social Structure”, 異文化, 11, 2010, 査読なし, pp.87-109.
- ② 大中一彌「パスポートの話」, 『異文化』別冊「国際文化情報学とは—その可能性と課題」, 2010年, 査読なし, 79-88頁。
- ③ 大中一彌「エティエンヌ・バリバール論—あるマルクス主義哲学者の軌跡」, 石崎晴己・立花英裕編『21世紀の知識人—フランス、東アジア、そして世界』藤原書店, 2009年, 査読なし, 93-103頁。
- ④ 大中一彌「ポスト植民地主義期における社会と国家—現代フランス政治における移民問題を手がかりに—」, 年報政治学, 2008年, 査読なし, 82-108頁。
- ⑤ Kazuya ONAKA, 《Le foulard islamique dans l'espace public français contemporain - une réflexion sur la laïcité, le genre sexuel et le rapport post-colonial -》, 異文化, 9, 2008, 査読なし, p.31-51.